

日本労働年鑑 第58集 1988年版
The Labour Year Book of Japan 1988

第四部 労働組合と政治・社会運動

III 政党の動向

5 民社党

3 大会・中央委員会

(2) 第三二回定期全国大会

大会経過

第三二回定期全国大会は、二月二三～二五日、東京・九段会館で開催され、代議員三九八人が出席した。この大会は、前年の衆参同日選挙で大きく後退した党の態勢立て直しを最大の課題とし、「連合」発足にともなう支持団体である同盟の解散にどう対応するかということも焦点の一つであった。

大会第一日目は、開会のあいさつ、議長団選出などのあと塚本委員長があいさつし、つづいて、大久保直彦公明党書記長、江田五月社民連代表、宇佐美忠信同盟会長、藁科満治中立労連議長、豎山利文全民労協議長、小松雅雄民社研議長、清水信次日本チェーンストア協会会長の七人が来賓としてあいさつした。午後からは、党務報告、国会報告、決算報告などがなされ、質疑のあと、各議案の審議が翌日の各分科会に付託された。

第二日目は、各分科会に分かれて討議が行われ、第一分科会は「運動方針」と「行動綱領」、第二分科会は「組織活動方針」と「予算」、第三分科会は「政策」について質疑が交わされた。

第三日目は、各分科会の報告がなされ、報告どおり承認・可決された。党员表彰、統一地方選挙予定候補の決意表明などの後、「売上税粉碎の決議」など五つの決議(『週刊民社』三月六日付に掲載)が採択され、投票を省略して三役留任などの新役員が選出された。

塚本委員長あいさつ

大会冒頭あいさつにたった塚本委員長は、民社党をとりまく「情勢は、まさに一変しつつあります」として、(1)円高による大量失業時代の到来と基幹産業と地域の壊滅的打撃、(2)衆参同日選挙で大勝した自民党の暴走、(3)同日選での民社党の敗北、(4)最大の支持基盤である同盟の解散と「連合」のスタート、の四点をあげ、この「四つの変化は、そのままわが党にとって、結党以来、最大の試練であるといって過言ではない」、「いまその存在意義と真価をかけた歴史的な正念場を迎えている」と、危機感を強調した。そして「最大の政治テーマ」として売上税問題をとりあげ、「中曽根内閣と厳しく対決し、売上税を撤回させるまで」たたかい抜く決意を明らかにした。当面する統一地方選については、「次の党再生を賭けた、総選挙への中間選挙」であり、「確実に勝ち抜き、地歩をふみ固めなければならない」とし、「悲壮感に立って、断じてやり抜けば必ずや勝ち抜ける」と訴えた。

この委員長あいさつは、「自民党との連合や社会、公明両党などとの連合政権構想には一切触れず、当面は売上税反対で各野党が団結することを重視したのが注目され」たが、「党の独自性をどうアピールしていくかについては必ずしも明確な指針は示せぬまま」(『朝日新聞』二月二三日付)終わった(なお、あいさつ全文については、『週刊民社』三月六日付を参照)。

役員

第三二回大会で選出された新役員は、つぎのとおりである(○印は新任)。

▽中央執行委員長＝塚本三郎、▽副中央執行委員長＝永末英一、▽書記長＝大内啓伍、▽中央執行委員＝○安倍基雄・荒瀬修一郎・池畑英雄・伊藤英成・岡田正勝・小川泰・小沢貞孝・河村勝・神田厚・栗林卓司・小淵正義・○坂本哲之助・三治重信・○田中慶秋・田淵哲也・玉置一弥・中井治・永江一仁・中野寛成・中村弘・西村章三・藤井恒男・藤原勝・柳沢錬造・吉田之久・米沢隆、▽統制委員長＝○滝沢幸助、▽統制委員＝青山丘・大松明則・川端達夫・北橋健治・小山善次郎・菅原喜重郎・戸部卯吉・中田一郎・西村寿紀・部谷孝之、▽会計監査＝伊藤郁男・木下淳美・鈴木道明・中田昌秀・山本悌二郎、▽常任顧問＝春日一幸・小平忠・佐々木良作・中村正雄、▽顧問＝天池清次・稲富稜人・滝田実・竹本孫・村尾重雄・門司亮・和田耕作

日本労働年鑑 第58集 1988年版

発行 1988年6月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

****年**月**日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1988年版(第58集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
